

## 第3回兵庫県立大学評価委員会 議事録(案)

### 1 会議の日時及び場所

(1) 日時 平成25年3月8日(金) 15:00~17:00

(2) 場所 兵庫県公館 第2会議室

### 2 出席した委員

石川委員長、西門委員、西川委員、藤田委員

### 3 出席した職員

(県立大学) 清原学長、太田副学長、新免副学長、高坂副学長、楠見事務局長、  
藤原事務局副局長、林事務局企画調整部長、菅野事務局学務部長

(兵庫県) 永良大学室長、小野大学室主幹

### 4 会議の内容

#### (1) 開会

#### (2) 議事

評価報告書(案)について

委員長より資料1について説明後、意見交換を行った。(下記5参照)

兵庫県公立大学法人評価委員会について

事務局より資料2~5について説明。

今後のスケジュール

事務局より資料6により説明。

#### (3) 閉会

### 5 意見交換の概要( :委員、 :県立大学又は事務局)

総合大学として統合した兵庫県立大学としての成果について、ブランド力などのマーケティングや戦略的広報を行っていくことが大きな課題である。他の大学とは違う県立大学独特の強みを思い切って打ち出していくべきである。

外部資金の獲得額増加について、どのようなルートで獲得されるのか。

大型プロジェクト研究は、先端的な研究を進めている先生を中心にして連携し、JSTやNEDOの大きなプロジェクトを獲得している。また、本学の産学連携機構から教員へ情報を提供し、教員が独自に獲得している場合や、産学連携機構のコーディネーターが積極的に関わって獲得する場合もある。JSTのERATOという研究プロジェクトなどの大きな外部資金を獲得している例もある。また、最近では、環境エネルギー分野が注目されており、燃料電池の材料開発や、太陽電池の高効率化や低コスト化などの枠組みの中で、チームを作って獲得している例もある。組織的には、今後さらに産学連携機構の体制を充実させるため、プロジェクトプロデューサーの役割を担う専任教員の配置や、リサーチ・アドミニストレーターのような人材の採用などにより、さらに強化していくことを考えている。

また、個々の教員は科研費に応募することを義務としており、申請率100%を目指している。

それ以外では、地元産業界を支援する立場で、産業界との連携や、産業界の要望に

添う形で、研究指導、技術相談、共同研究、受託研究など様々なバリエーションでの外部資金を獲得している。

大学間競争は、国内でもグローバルでも、産業界以上に厳しくなる一方であり、その中で、いかに兵庫県立大学を上昇していく大学にしていくかということに、この評価を活かして積極的に展開してほしい。

卒業生の動向把握については、留学生も含めてだと思うが、国内学生の動向についても把握し、卒業生と大学と在学生との交流がエキサイティングに進んでいくことが重要である。また、兵庫県立大学は、言葉で見ると真面目なイメージを受けやすいが、例えばクラブ活動の成績がよくなったなどのポジティブな変化も打ち出して、エキサイティングな大学であるという方向に進んでほしい。そのためには、広く国内外のベンチマークとなる大学と切磋琢磨できるような形を考えてほしいと思う。

大学を取り巻く環境が厳しいことを実感として持っていない教員も多いので、厳しいというシミュレーションを示すなど、意識改革を行うことも必要になってくる。

シンガポール、マレーシア、インドネシア、中国、韓国などは、すごい勢いがあり、それに対して何を図るかということがどの大学にも課された最大の課題である。これからは、アジアを中心とした経済圏が確固としたものとなるので、アジア全体の大学に目を向けることが重要であり、兵庫県立大学がアジアの中で光る存在の大学になることが今後期待される。

総合性の発揮、地域性の強化、各学部等の個性化・特色化に向けた取組について、どのようなプロセスで展開していくかということが重要であり、総花的にならないよう、強調すべきところはきちりと強調していくべきである。

統合前からいた教員と統合後からいる教員の割合はどれくらいか。また、各教員が持っている意識は、統合後、前向きになっているのか。

具体的な数値を調べてはいないが、半々くらいだと感じる。県立大学ということで多少の一体感は出ており、工学部、理学部は、研究的な面がいい面を持っており、それが他のキャンパスへ波及しているという面もある。

意識については、個人差が大きく、具体的な事業を展開する中で、全体として前向きに一緒に進んでいくという姿勢を常にアピールしておくことが必要だと思っている。

各学部等の個性化・特色化の中で、毎年のように新しい研究科が新設されているが、大学のキャパシティは限られていると思う。大学の特色化を進めていく中で、どの部門を強くしていくのかを見える形でアピールしていくことが必要である。

基本的にはスクラップアンドビルドで実施している。今ある枠の中で、色んな新しい展開を図っている。特色を明確に示すために、3つから4つに重点を絞ってやっており、理学部・工学部を中心とした先端研究の拠点づくり、専門職大学院の新しい展開による職業人養成の高度化、自然環境・地域・景観などのユニークな分野での教育研究組織についてアピールしていく戦略を考えている。

また、大学としては、グローバル化への対応、学生に対する支援、教育の向上についても一生懸命に取り組んでいきたいと考えており、それを大学全体の広報戦略に結びつけて、打ち出していきたい。

学生や父兄から、兵庫県立大学はこの分野が強いという印象を残す見せ方を強調すればよいのではないか。

統合して総合大学になったことによって、学生がここに来てよかったと実感できることが、統合の1つの成果だと思う。旧3大学の垣根を越えて学生の活動が展開し、異なる学部同士での交流が広がれば、幅の広い人間形成にもつながると思う。また、統合したことでジェンダーのバランスがとれ、それを活かすこともできると思う。今後も、外国人留学生も含め、学生にとって視野が広がるような雰囲気を作っていってほしい。

いい大学は、学生がいいと言われる一方で、いい先生がたくさんいるということ。今後、広い意味で素晴らしい教員が増えて、エキサイティングな教授陣になっていくことを期待している。アメリカの大学では、3年ごとの契約で、教育と研究の評価を受け合否を判定するなど、厳しいシステムとなっている。日本では、そのようなシステムがないので、教授陣が常に時代に対応した形で発展していくシステムをどのように作るのか今後検討する必要がある。

学科改編や、学部の内容を変えることを繰り返しながら、少しずつ人を入れ替えていくことを心がけている。

クラブ活動等も含めた学生の人間形成についても、総合大学としての良さがいかに活かせるかということに力を入れていかなければいけないと感じている。本来大学が成すべき人間形成の基幹的な部分は、クラブ活動等が担う面も大きいと考えており、他キャンパスの学生同士が交流できるような仕組みづくりを検討していきたい。

グローバル社会の枠組みをどのように捉えて、どのような教育を展開するのか。大学として、TOEICの目標設定が必要である。現在は、ICTが発達しているため、ネイティブスピーカーがいなくても、学習できる環境にある。

最近では欧米志向が薄れてきており、英語だけでなく、どの学部でもアジア語を習得することが重要になってきている。英語を基準としながら、好きな言語をやらせて、若い時に外国の風に触れさせるということは大事である。そうすることで、内向き志向から抜けることもできる。グローバル人材の育成というのは、アジアで活躍できる日本人の育成ということであり、そのことが将来求められていると感じる。

英語は、英語学を学ぶ人以外には、ツールである。英語のレベルの高い人材を養成することは重要であるが、学生全員が高いレベルに合わせていく必要はないと感じる。時間をかけなくても、他国の言葉を学ぶことで、文化や人を知るという意味では、プラスにはなると思う。

他国の言葉でいえば、神戸学園都市キャンパスではヨーロッパ系言語に加え、過去には、韓国語のクラスや、インドネシア語、タイ語などのアジア系の語学科目を用意していたが、履修者が少なく続かなかった。中国語は、学生のだいたい1/3くらいが希望している。県立大学がアジア展開を図っていくということは意識しており、アジア系語学科目の開講に関しては今後の検討課題としたい。

大学としては、全体的な英語力のアップということだけでなく、語学力に秀でたグローバルリーダーを養成するコースを作ろうとしている。語学は、1回生の時は必修となっているが、大学として必修の必要はないのではないかと考えており、伸ばしたい語学を一生懸命やれるような仕組みづくりを検討している。

何れも国語も色々とされているが、それは個人でやるべきであり、大学のカリキュラムの中でそこまでやる必要はないように感じる。

グローバル化という中で、いつも語学が問題になるが、外国に出て活躍していれば、自然と語学は身に付き、使えるようになる。内向きではなく、外に出て行って活躍しようという人材を育成していくことが根本であると思う。そのためには、環境が重要であり、大学全体で、世界で活躍する学生を育てていくという共通認識がないとうまくいかない。英語はある程度できないと、外に出て行こうとするきっかけにならないので、最低限は必要である。

日本の大きな課題の中で、グローバル化の次に高齢化社会への対応が重要になってくる。高齢化が進んでいくなかで、大学がどのような役割を果たすことができるのかを積極的に考えてほしい。すべての人々が一生、新しいことを学び直して、社会で活躍していくために、大学が新たな役割を果たし、社会的にイノベーションを起こしていくことも1つの大きな方向だと思う。